

はじめまして、マイケル・カーンと申します。

私が生まれ育ったのはアメリカ合衆国のアリゾナ州なのですが、この10年間は高知県に住んでいます。そして、この10年間のうちで、私にとっての最も大きな出来事と言えば鏡村という山村の役場で勤めたこと、そしてその山村の人々の文化について学んだことです。

今日は、鏡村で一番印象に残った発見について話をしたいと思います。

何年か前のことです。鏡村のある集落の、山の斜面に石垣で棚田を作ったところで、1人のお百姓さんと話をしました。

話の中で、その人が「代々」という言葉を使って、さらに自分のことをその土地で「4代目」と言っていました。しかし、その「代々」とか「〇代目」という言葉の意味は私には分かりませんでした。意味を聞いてみると、そのお百姓さんはこう説明してくれました。「そりゃ、わしのひいじいさんの代からずーっとここにおるがやき。ひいじい、じい、お父、そして自分がずーっとこの土地を守って、あの家に住んでこの田んぼを作りゆうわけよ。」

その時私は、かなりのショックを受けました。というのは、アメリカでは住む場所を一生のうちに何度かかわるというのは普通のこと、子供は親の家を必ず出ます。従って私が生まれ育った近所の人たちもみんなどこから引っ越してきた人ばかりで、みんなが1代目なのです。自分のひいじいさんが住んでいた場所に今、自分も住んでいるというのは考えられないというか、考えたことさえなかったのです。

でも気が付いてみると鏡村で私はそういうように代々生活している人たちに囲まれて暮らしていたのです。彼らはすごいな、と思うようになり、今度は4代目以上に長く続けて住んでいる家族がいるのか、知りたくなりました。「あの…すみません、ここに住んであなたで何代目ですか？」と質問しながら、村を回りました。すると、4代目というのは序の口で、5代目、6、7、8代目もけっこういたんです。これが限界だろうと思っていたら今度は10代目と14代目がいたのです。次に20何代目、そして30何代目がいて、一番長く続いている家族はなんと1000年近くも前から、ずーっと同じ集落の同じ場所に住んでいて、同じ畑を耕しているそうです。

皆さんは、自分たちの身の回りにこんな長い歴史があるということを知っていましたか？私はこういうことが分かったとき、アメリカに住んでいる父、母、そして友人に電話でこのことを話してみたら、みんなすごくびっくりしました。日本ってすごいね、ということで意見が一致しました。

私たち1代目の人は、この人たちに教わるがたくさんあると思います。まず、山の中で代々生活している人たちは、自分たちの食べるものも自分たちの手で作らなければならなかったのです。こんなことを聞くとすごく難しそうに聞こえるというか、大昔のこのように思われるかもしれま

せんが、実際に目の前で見てみると、知恵さえあればそれほど手が届かないことでもない、という気になります。

知恵は親から子へと代々伝え積み重なってこそすばらしいものが生まれてくると思います。米と一緒にできるわらを使って草履とかいろいろな生活用品を作るのもそうですが、自然に生えてくる野草はどれが食べられるとかどれが薬になるのか。雲の動きによって次の日の天気はどうか。作物をいつ、どういうふうに植えた方がいいのか。これらの情報は数え切れないほどあって、かつては、このたくさんの知恵はなくてはならないものだったはずですが。生活する知恵の大切さについて、大変勉強になりました。

そして、もう一つ勉強になったのは、1年間の季節の移り変わりと一体化した生活文化です。時々日本人に「アメリカに季節ってありますか？」と聞かれるのですが、季節は当然ありますが日本ほどその季節の移り変わりと同化した人々の文化はありません。

鏡村で言えば、正月から始まり、炭焼き、しし狩り、田んぼの土作り、畑の始まり、お彼岸、山菜取り、田植え、茶摘み、梅の収穫、川の魚釣り、お盆、しょうがや米の収穫、秋祭り、そしてまた正月の準備や墓に置くためのしめ縄を作る作業と、人々の生活は常に大自然とドッキングしてこの1年のサイクルを回っている、ということに非常に感動を覚えました。

日本の田舎に残る、自給自足型の生活文化は大変すばらしいものだと思います。そこで私は母国語の英語を日本人に教えながら、日本人の生活文化を自分なりにビデオで記録することにしました。

こういう風に自分の気持ちをまとめた言葉で近所の人たちに言ったこともないのですが、面白いことに炭焼きとか田んぼとかばかりを取材していると、村の人たちにこう言われる場合があります。「何でそんなに昔のことに興味があるかよ。昔に戻れんで。」

今度この言葉を言われたらこう答えようと思ってます。

日本人のおかげで、人間って何かという、頭の中の新しいイメージができました。前は人が勝手に生まれて、勝手に人生を楽しんで勝手に死ぬと思っていました。そういう教育を受けてきました。そうではない、ということが良く分かりました。先祖代々というのは、一つの長い鎖みたいなものであって、大昔から「大」未来へとつながっていくのです。私たちの人生の長さやスケールがまったく違うので、私たちの目でこの鎖を見ることはできませんが、私の命そして皆さんの命もこの鎖の中の一つの輪となっています。

私たちはその鎖に輪として役割があると思います。その役割は昔と未来をつなぐ接点であることだと思います。だから、昔のことに興味があるのは、昔に戻りたいからではなくて、素晴らしいものを未来に伝えたいからです。

最後になりますが、日本が島国であるということは、とっても良かったと思います。何百年も何千年も海に守られていたからこそすぐれた文化が育まれてきたのです。

一方、アメリカでは次の場所へ移ろうとする精神、フロンティアスピリットと言い換えてもいいかもしれせん。この精神は、宇宙ステーションで生活しようとか、未来は火星で植民地を作ろうとか、そういう話にまで発展していますが、皆さんどうでしょうか。

私はこう思います。楽しく、逞しく、先祖代々この地球上でやっていくぞという精神を、日本から世界へ発信できたら素晴らしいなあ。

昔に戻るんじゃないけど、昔の文化の中に未来の人たちが必要とするたくさんのヒントがあります。そのヒント得る時期は今です。日本の田舎に残るルーツの中にある貴重なヒントを見つけ出し、これらを世界へ発信するよう、地球人の一人として日本人の皆さんにお願いしたいと思います。